

麻しん（はしか）患者の発生について（第 2 報）

- ・ 4 月 28 日に麻しん患者 1 件（患者 1）の届出があり、注意喚起をしたところです。
- ・ 5 月 8 日、新潟市内の医療機関から新潟市保健所へ麻しん疑い患者の届出が 2 件あり、市衛生環境研究所で検査を実施したところ、いずれも麻しんウイルスが陽性で診断が確定しました。
- ・ 発熱、発疹等の麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡の上、指示に従い受診してください。また、移動の際は、周囲の方への感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

	患者の概要	発生経過等
患者 2	10 歳代 女 新潟市在住	5 月 5 日 発熱、発疹
		5 月 6 日 A 医療機関受診
		5 月 8 日 B 医療機関受診
		〃 市衛生環境研究所の遺伝子検査の結果、麻しんと確定
患者 3	1 歳 女 新潟市在住	5 月 6 日 発熱
		5 月 8 日 発熱、発疹 C 医療機関受診
		〃 市衛生環境研究所の遺伝子検査の結果、麻しんと確定

※患者 3 は、患者 1 と同じ日時に、同じ医療機関を受診していました。患者 2 の接触状況は調査中です。

【電話相談窓口】 開庁日：8：30～17：15

新潟市保健所保健管理課感染症対策室 025-212-8194

新潟県福祉保健部健康対策課感染症対策係 025-280-5378

<お願い>

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、感染症及び患者家族等について本人が特定されないことがないよう、人権に格段のご配慮をお願いいたします。

【問合せ先】

新潟市保健衛生部保健所保健管理課感染症対策室 025-212-8194 （担当：相馬・栗原）

【麻疹（はしか）について】

1. 一般的な症状

- ・感染すると、約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が 2～4 日続き、その後 39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。
- ・麻疹ワクチンを 1 回のみ接種している場合、典型的ではない症状を呈することがあるため（修飾麻疹）、風邪と誤っていても実際には麻疹の可能性があるので注意が必要です。

2. 患者からどのように感染するか

- ・症状が出る 1 日前から症状がおちつき熱が下がって 3 日程経つまでの期間の患者は、ウイルスを体外に出しており、周囲の麻疹に対する免疫が不十分な人が感染する可能性があります。
- ・患者の鼻水や咳などと一緒に出る飛沫（つば）には麻疹ウイルスが含まれます。飛沫が口や鼻などから入ったり（飛沫感染）、ウイルスがついた手で目や鼻や口などに触れることで感染します（接触感染）。また、体外に出たウイルスは暫く（2 時間後位まで）空気中にたどよい、それを吸い込むことで感染します（空気感染）。

3. どのような人が感染しやすいか

- ・予防接種を受けていないなど麻疹に対する免疫が無い人です。一度かかったり、予防接種で十分な免疫をもっていれば、再度かかる心配はないと言われています。

➤ 予防接種歴についてご確認ください

- ・平成 2 年 4 月 2 日以降に生まれた方は、麻疹の予防接種を 2 回受ける機会がありました。母子手帳で 2 回接種が済んでいるかをご確認ください。
- ・麻疹の予防接種は、昭和 53 年から始まりました。平成 2 年 4 月 1 日以前に生まれた方は、幼児期に 1 回予防接種を受けてから相当の年月が経過していますので、感染防御のための十分な免疫が無い可能性があります。医療機関にご相談の上、ワクチン接種をご検討ください。

<麻疹患者の発生状況>

	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年	H29 年
全国	229	462	35	165	158
新潟県	1	2	0	0	3
新潟市	1	0	0	0	3

※1 全国、新潟県は、新潟市分を含む。

※2 平成 29 年全国は 4 月 30 日時点、新潟県・新潟市は 5 月 8 日時点